

田原中だより

学力特集号

北九州市立田原中学校
学校だより

校長 岩本 健司

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

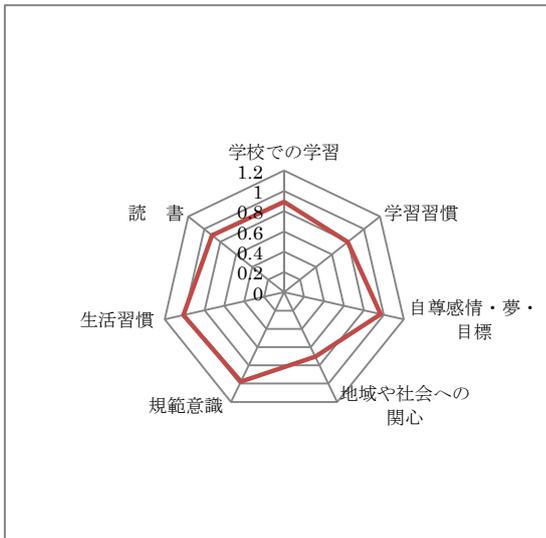
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要



教科・区分	学力調査の分析 (傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	話すことや聞くことに関する力が不足しており、漢字の書き取りが苦手な生徒も多い。古典分野に関しては比較的興味をもって学習に取り組んでいる。	下回っている
国語B	書くこと読むことに関する力が全体的に不足している。自分の考えを文章で表現する問題に課題がある。作文や感想文を書くことにより、文章表現の力を育成する必要がある。	下回っている
数学A	数と式、関数、図形のどの領域においても学力が不足している。図形の計量に関する力を育成する必要がある。作図に関しては、よく理解している状況がうかがえる。	下回っている
数学B	数と式、関数、図形のどの領域においても理解が不十分である。情報処理に関しては理解度が高い。今後は図形の証明問題などに力を入れる必要がある。	下回っている

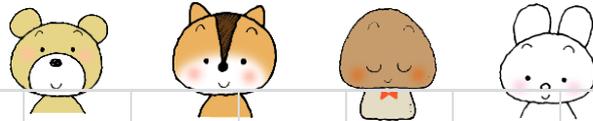
2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・基本的な生活習慣が確立されている生徒が多く、規範意識も高いので、落ち着いた学校生活が送れている。
- ・学校での学習に対する意欲が低く、家庭での学習習慣も確立されていない生徒が多い。
- ・地域等の行事に参加している生徒が少なく、地域とのつながりを深めていく必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組



① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)	<ul style="list-style-type: none"> ○すべての授業においてめあてカードを使用し、振り返りの学習についても充実させていく。 ○朝自習を利用して、漢字の書き取り、計算問題、英単語の学習等の基礎学力を養成する。 ○全学年で主体的、対話的で深い学びを目標とした授業を実践していく。 ○教科ごとの取り組み(天声人語の書き写し、理科ノートコンテスト、英語検定の受験)のさらなる充実を図る。 ○書く力をつけるために、行事が終わるごとに感想文を書かせるようにする。 ○ICT機器を有効に使い、分かりやすい授業づくりに努める。 ○教員の指導力向上のために、授業研究等の研修の充実に努める。
② 家庭生活習慣等に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科において、計画的に宿題を課し、家庭学習習慣を確立させる。 ○週末課題や連休中の課題を与えることで、休日における家庭学習の充実を図る。 ○冬休み、春休みには各教科独自の課題を与え、学力向上を図る。 ○学校便り等で本校の学力について保護者に周知し、課題を共有することで協力体制を整える。 ○小学校卒業から中学入学までに課題を与え、学習意欲の向上を図る。